

甲斐市議会 山梨県緑化センター跡地活用特別委員会 会議録

1. 開催日時 令和4年2月21日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（9名）

委員長	藤原正夫君	副委員長	加藤敬徳君
	谷口和男君		秋山照雄君
	清水和弘君		金丸幸司君
	赤澤厚君		小澤重則君
	斉藤芳夫君		

欠席委員（1名）

小浦宗光君

傍聴議員（3名）

議長	山本英俊君		滝川美幸君
	金丸寛君		

説明のため出席した者の職氏名

都市建設部長	斉藤一己君	都市計画課長	大木康君
緑化センター 活用推進係長	丸茂貴幸君		

職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	山田洋	書記	森田公
書記	長田大地		

審査内容

- 1 (仮称) 篠原地区公園整備に係る新聞報道について
- 2 その他

開会 午前 8時57分

○書記（長田大地君） おはようございます。ご参集大変おつかれさまです。

ただいまから、山梨県緑化センター跡地活用特別委員会を開会いたします。

本日の委員会は、委員長より挨拶をいただきまして、委員長の進行により進めてまいります。

それでは、委員長挨拶、藤原委員長、よろしく願いいたします。

○委員長（藤原正夫君） 改めまして、おはようございます。

大変今朝は寒い1日となりました。また、時節柄、議員各位には大変お忙しい中、また今日は早い時間の会議でございます。ご苦労さまでございます。

それでは、早速会議に入りたいと思います。

ただいまの出席委員は9名であります。定足数に達しておりますので、これより山梨県緑化センター跡地活用特別委員会を開会をいたします。

なお、小浦委員は欠席の旨の連絡がありましたので、報告をいたします。

○委員長（藤原正夫君） 本日の委員会は、お手元に配付した次第のとおりに進めたいと思います。

なお、本日は、委員外議員の傍聴を許可しますので、ご承知おきをください。

質疑は、委員の質疑を受けた後に傍聴議員の質疑を受けたいと思います。傍聴議員の質疑は、さきの申合わせのとおり、全会派1名とし、質問は1問、再質問は1回までといたします。

それでは、これより次第の3、内容に入ります。

（1）（仮称）篠原地区公園整備に係る新聞報道についてを議題といたします。

担当より説明を求めます。

齊藤都市建設部長。

○都市建設部長（齊藤一己君） 改めまして、おはようございます。

（仮称）篠原地区公園整備に係る新聞報道につきまして、ご説明させていただきます。

まず、冒頭、このたびは、2月18日の山梨日日新聞に掲載されました記事に関しまして、

大変ご心配をおかけいたし申し訳ございません。

また、併せましてお伝えさせていただきますことは、この記事に関して、市長、副市長をはじめ、私を含め、都市計画課長及び担当職員、いずれの者も取材を受けておらず、加えて情報提供を一切行っておりませんことを、この場をお借りいたしましてはっきり申し上げさせていただきます。私ども担当といたしましても、詳細な整備内容が決まっていない現在、掲載された内容を見て驚くとともに、大変遺憾に思うところでございます。

緑化センター跡地活用につきましては、（仮称）篠原地区公園整備事業として、市民の皆様から募集いたしました1,680通、4,250件の活用アイデアを元に、子供及び大人の市民ワークショップをそれぞれ開催し、市民参加による整備基本計画の策定を進めてまいりました。

これらを経て、本年1月12日に開催されました本特別委員会において、子供、大人の各市民ワークショップに参加された皆さんが検討し、個性豊かに作り上げたアイデアと公園のイメージなど5つの案につきまして、その内容を詳細にご説明させていただいたところでございます。

また、市民ワークショップにご参加いただいた皆様に、ご検討いただいた内容を発表していただける場として、市民フォーラムの開催を1月22日、2月13日の2度にわたり予定いたしましたでしたが、あいにく新型コロナウイルスの影響により中止を余儀なくされたため、議員の皆様にはファクスでご案内いたしましたとおり、2月1日から本市ホームページにおいて、市民ワークショップにご参加いただいた皆さんの発表内容を動画配信し、広くご紹介しているところでございます。

これらを踏まえ、先週16日に議員の皆様には、2月定例会での施政方針に係る市長説明用紙が配付され、既にご覧になられているかとは存じますが、市長から（仮称）篠原地区公園の整備基本コンセプトや整備の方向性についてお示しさせていただく方針としております。

今回、新聞掲載されました記事を見ますと、現在動画配信されています市民ワークショップでまとめられた5つの案でも提案されております、子育て支援に係る複合施設や遊具をはじめ、家族連れなどが楽しめる芝生広場など、自然を生かした公園整備としてのアイデアが数多く掲載されているとともに、本会議や特別委員会でこれまでお伝えしてまいりました、緑化センター跡地に残る樹木などを可能な限り残す方針など、以前よりご説明してきた内容も掲載されており、恐らく山梨日日新聞の記者が、市長説明要旨をベースに、市民ワー

クショップでの提案内容等から総合的かつ俯瞰的に、独自目線で活用案としてまとめたものと推測しております。

私ども担当といたしましては、本年1月12日の本特別委員会でご説明いたしましたとおり、整備基本計画策定業務を請け負う公益財団法人山梨総合研究所が、市民ワークショップでの5つの案のほか募集いたしました活用アイデアを参考に、複数の整備配置案を成果品として納めることから、3月下旬に開催を予定しております本特別委員会へまずもってその内容をお示しし、その後、最終案を市としてまとめ上げてまいりたいと考えておりますので、引き続き、本事業へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、記事を掲載した担当記者に、記事にある関係者への取材とあった情報源等の確認を行いました。明確な回答は得られませんでしたので、不確定な内容を掲載したことを厳しく抗議するとともに、今後は掲載する内容を事前に担当へ確認するよう強く申しつけておりますことを申し添えさせていただき、今回の新聞報道に係る説明とさせていただきます。

説明は以上となります。

○委員長（藤原正夫君） ご苦労さまです。

説明が終わりました。

これより質疑を行います。

ここで、委員並びに職員各位に申し上げます。

質問は一問一答とし、また、質問・答弁は、簡潔・明瞭にさせていただきますようお願いを申し上げます。

それでは、説明に対する委員の質疑を行います。

質疑等がありましたらお願いをいたします。

質疑ございますか。

谷口委員。

○委員（谷口和男君） 説明を伺って、そういうものかというふうに基本的には思ったんですけども、ただ、こういう記事が出るということは、何かいかにも決まったように話した関係者がいるのかというふうに思えるんですね。実際のところは3月に何か費用概算を出して3つぐらい素案を出して、皆さんにお示しすると言っていたんですけども、その方針には変わらないことでしょうか。

○委員長（藤原正夫君） 齊藤都市建設部長。

○都市建設部長（齊藤一己君） 先ほどご説明をさせていただきましたとおり、1月12日の

本特別委員会でご説明させていただきましたとおり、市民ワークショップで出ました5つの案のほかに、活用アイデア募集後を踏まえて、山梨総合研究所が複数の案を配置案ということで成果品として納めますので、予定どおり3月下旬の本特別委員会でそれらをお示しさせていただこうという考えには全く変更はございません。

○委員長（藤原正夫君） よろしいですか。

ほかにございますか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 今、部長のほうから詳細について説明をしていただいたというような、我々もそれを信じたいと思うんですよね。ただ、先ほど言ったとおり、ここの新聞に載っているとおり、17日に関係者から取材を得たということは、我々ともちょっと問題はあるのかなと思うんだけど、その関係者というのは、今、部長から、市長にしても、我々にしても、それはないということなんだけど、こういったことが、やっぱり新聞社だから、いろんな情報を得てこういった記事にして、早くスクープというか、すっぱ抜くというのか、あり得ることだけでも、そういった関係者からこういう取材を経て、これは活用案を出したとこれは、こう見ると、そういうふうに我々は取れるんだよね、要は。

そういったところが、やっぱりこの事業というのは、今までいろんな経緯があったりして、市民のいろんな意見もあったりするので、やっぱり慎重に我々も進めてきたし、その辺は今後もその情報とか案とかが、事前に漏れるようなことは、これはいろんな形の中で今まで説明をしてきた、いろんな新聞社が独自で自分の解釈で今は新聞に載せたというような説明なんだけど、ただ、そうばかりじゃないような、我々にすればね、受け取り方はできるので、やっぱり今後十分こういうことも、載ったのは事実だから、これはまああれにしても、結局十分注意をして、本当に今後対応してもらわないと、やっぱり今物すごく関心持っているから、市民が、事前に議会のほうに報告していただかないと、議会軽視というか、言葉はちょっとあれかもしれんけれども、やっぱり特別委員会は我々も開いて、こうやってせっかくあそこを取得して、何とかいい方向に進んでいるときに、こういったものが出るということは、我々特別委員会、今から全協を開くようだけれども、議会のほうとしても、もうちょっと慎重に事を運んでいただきたいと思うんだけど、その辺のところはちょっと所感をお聞きしたいと思いますけれども。

○委員長（藤原正夫君） 齊藤都市建設部長。

○都市建設部長（齊藤一己君） 本事業の進捗に関しましては、一部の議員様から、もう少し

スピードアップしてやってみてもどうかというご意見もいただいたところでございますが、私どもといたしますと、全事業の経過を踏まえまして、慎重に慎重を重ねて、これまで市民、そして議会の皆様とのコンセンサスを第一にこの事業を進めてまいりましたので、今後も、そのような形で事業を進捗させていただくとともに、まずもっては、いろいろな案とか、経過等につきましては、本特別委員会にご報告させていただくなり、ご説明させていただいて、事業を進めてまいりたいと考えております。

○委員長（藤原正夫君） 赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） ぜひ、今後については、このようなことのないように。やっぱりきちっとした事業の進捗をしていただきたい。これ強く要望しますので、よろしくお願いします。

○委員長（藤原正夫君） 斉藤委員。

○委員（斉藤芳夫君） これは山梨日日新聞が、今、部長も抗議もしたと。いろいろ事前に何も情報ないのに勝手に書かれて困っているという話が出ている。でもね、山梨日日新聞にしてみると、これは自分たち報道の自由という部分の中で、担当の記者さんと会社の幹部がこれを記事にしましょうと決めて載つけたわけですよ。誰に責任があるのかなんとかの問題じゃない。こんなものは、はっきり言えば、どこの関係者が、誰が何ということまでうたっているわけでも何でもないわけだもので、これは要するに、企業の事業としての判断をしたのがこの記事だと。記事に関してあれだこれだと今検討しているけれども、記事の責任という部分は、山梨日日新聞が自分で全部負うことなので、議会でこれを、あるいは委員会で何を審議するのかなと私は思ったんです。そのぐらい民間の企業という報道の会社が、自分の会社の方針として決めて書いたことに、議会が先だ、何が後だなんてことは、我々自体は関係ないというふうに私は思うんだけれども。

○委員長（藤原正夫君） 齊藤都市建設部長。

○都市建設部長（齊藤一己君） 先ほどから議員の皆様からお話がありますとおり、私どもは、議会のほうを飛び越えてこういった情報提供を行ったということであれば、十分お叱りや責めを負うことも覚悟しておりますが、冒頭申し上げましたとおり、市長、副市長及び私、また課長、それから担当職員一切取材に応じた経緯もございませんし、情報提供したこともございませんので、それ以上の説明も、それ以下の説明も、私としてはないということでご理解いただきたいと思っております。

○委員長（藤原正夫君） 金丸委員。

○委員（金丸幸司君） すみません、先ほど関係者の聴き取りを行った場合、そういったことは確認されなかったと。市長をはじめ職員ですね、そういうことはなかったということの説明があったのですけれども、一つは先ほど部長が言われた強く抗議をされたということなんですけれども、私一つ思うに、やっぱり市民の方がこれに決定なのかという実は問合せもいただいた、私だけではなくほかの議員もあったと思うんですけれども、これ例えば、先ほど部長が言ったとおりに、市のホームページか何かで、市民に周知するということが可能ですかね。今回のこの出来事に対して、今委員会説明だけじゃなくて、市民に対して、もっと幅広く今回の件を周知するということが可能なんですか。

○委員長（藤原正夫君） 齊藤都市建設部長。

○都市建設部長（齊藤一己君） これは組織としてのお話になるので、軽々なことは申し上げられません、私個人としては、そういったことでこの記事は決定事項ではないということをお知らせしたいという気持ちはございますが、組織としてどのようにするかということは、検討させていただきたいと思っております。

○委員長（藤原正夫君） よろしいですか。

○委員（金丸幸司君） はい。

○委員長（藤原正夫君） ほかにございますか。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 今の齊藤議員から意見は意見として、私も聞いておきますけれども、この文面見ると、総合的なもう方向で調整しているということが、17日に調査の結果で、関係者の取材で分かったということになっているんだよね。独自で向こうの発想でやったわけじゃないと思うんだよ。調整しているということ、17日に関係者の取材で、ということ、うたってここに載せているわけだよね。さっきじゃないけれども。だからそれはね、やっぱりあくまでも新聞社独自で、それは報道の自由というのは充分分かるけれども、やっぱりそれなりの事があったから載せたというようなのを我々は理解している。当然市民もそういう風に思っていると思うんだよね。今、金丸議員が言った事じゃないけれども。そういったことが誤解をされているのも事実だから、我々は特別委員会開いて、これは皆さんがちゃんと出たのは事実で謝罪もきちっとして、今後このような事がないようにということが、特別委員会の、それはやっぱり今日開く意義があると思いますよ、正直言って。

それは委員長どうですか。それに対して委員長の考え、お聞かせください。

○委員長（藤原正夫君） この記事に関しては、こういうことは新聞記者が報道の自由といい

ますか、とにかく先に先にとというのがあって、私もすぐ、朝一番でまず担当の記者に電話しましたところ、これは議会軽視じゃないかということで、抗議をしました。でも、過去の2、3回いろんな問題でも先に先行して新聞に報道されたこともあります。ここは、17日のことばかりじゃなく、前の緑化センター跡地活用、美術館のことについて、また、バイオマスについても甲斐市にはかなり記事として先行されたことはあります。

それはそれとして、ここにありますように、関係者ということになって、誰がどうするか、じゃ、誰なんだということに私も問いかけました。しかし、新聞記者は誰とは言えません。そうなる以上は、これはどうしようもない。

ただ、今日議論をするのは、今後、いろんなことに対して、いわゆる議会より先に報道に出るということは、あまり好ましくないということ、それは私も重々、皆さんも同じ考えだと思います。それをまず何とか阻止するには、先ほど齊藤部長が言ったように、記事に載る前に、取りあえず市のほうにどんな文面かを確認をしてほしいということを強く山日新聞、山日新聞のみならず、読売新聞もあれば、朝日新聞もございませし、地方紙版の中にもそういうことがあるので、確認をすると。強く要望をするということは、先ほど言ったのが、今後のあれだと思います。だから、これで関係者が誰ということは、そういうふうに書いたかと、自分でその記者がアドリブで書いたのか、そういうことになってくると、問い詰めてもそういう返事はあったとしても、私は答えられない。それはそうだと思います。

現に、私も言いますけれども、17日とか、前の特別委員会が終わったときに、何回かは終わった後、そこで彼が来て、どういう内容ですかということは聞かれました。これは私だけではなく、誰かも聞かれたと思います。しかし、今はこういう段階で、特別委員会も10月以降は開催をされたと再三執行側に私が要望しても、ワークショップの間だから会議はできませんということをお返りもらいました。そんな中で12月まで延びて、結果が延びたのでここまで来てしまったのですけれども、その中については、ワークショップの内容は、こういうことが出ましたよということは、彼には伝えたことがあります。しかし、これを決定だよということは、一切誰も、皆さんも言ったとしたとは思いませんよ。だって、山梨総研の回答が18日にぎりぎりに来て、二十幾日に一応私と部長と大木課長の3人の打合せでもう一回最後やりましょうということで、話がそこでもって初めて決まるんですから、しかし、私も皆さんも疑問に思うと思う。もう4月だから新年度なんですよ。あの計画書を見ると、令和3年度以内に、それをある程度決定するということがあまりにも時間がなさすぎる。以前、齊藤議員が12月二十幾日らへんには、もう山梨総研の答申回答が出ているんだ

から、1月頃には何とか発表してくれと、私も執行側に言ったことがあります。それで正月を越してあれだから、時間がないということで、1月17日まで延びたということで、そこでは山梨総研のある程度の枠は発表できません。これは、やっぱり総研さんをお願いをしている以上、3月いっぱいのところまでは公表できないんですよね。前の緑化委員会のときもそうだったんですけども、市民の方たちは早く説明をしろということだけれども、前の担当の人たちはそれで苦労したんですよね。いろんな市民の声、いろんな方から、どういうことで緑化センターの図面とかそういうのが出てこないんだと、再三非難されたけれども、彼たちは、それ言いたくても言えないということがあったのです。そんな苦労の中で、3月18日までは、誰が決定した事項なんてことは言うわけはないと思いますよ。それだけは、私は、委員長として確信を持って言う。

ただ、そこでもって、うちの会派室にも5分か10分来て、どうでしたかということで、こういう内容ですということは、はっきり言ってあったことは確かです。しかし、これで決定なんてことはとんでもないこと。これは、こういうふうに分のアドリブで書いたのか、それはどうか知りませんが、一応私の考えとしてはこんなことです。

以上です。

説明になったかどうかは分かりませんが。

赤澤委員。

○委員（赤澤 厚君） 今、委員長の考え等をお聞かせいただきありがとうございます。

私はやっぱり基本的に特別委員会がある以上、何か事があったときには、すぐこうやって委員会を開いて、やっぱり皆さんの意見を聞いて集約するというのが望ましいと思うので、今日、本当に特別委員会を開いていただき、ありがとうございます。感謝申し上げます。

今後も、そんなふうな形の中で、やっぱり何か事があるときには、執行にしても何にしても、すぐ特別委員会というのをいい意味で活用していただいて、事業がやっぱり市民が喜ばれる事業に、できるだけ早く進むようにまた頑張ってくださいと思います。

以上です。

○委員長（藤原正夫君） ほかにございますか。

小澤委員。

○委員（小澤重則君） 今回ワークショップモニターに応募していただいた方々にご苦労をかけているわけですが、その方へのケア、連絡等は、市の意向ではありません、誤報ですという連絡等は入れているのでしょうか。

○委員長（藤原正夫君） 大木都市計画課長。

○都市計画課長（大木 康君） この新聞記事に関しまして、市民ワークショップに参加していただいた方には、直接連絡はしておりませんが、先ほど金丸議員からもお話ありましたとおり、市としてこの報道に対する見解的なものはやはり組織で検討すべきなものと考えているものですので、併せてその方向も考えたいというふうに思います。

○委員長（藤原正夫君） 小澤委員。

○委員（小澤重則君） ワークショップで参加していただいた方は、何だこれかと思っっている面もあると思います。スピーディにその方々の誤解を解くような形も取っていただきたいと
思います。

これは意見で結構です。

○委員長（藤原正夫君） 要望でいいですか。

○委員（小澤重則君） 要望でいいです。

○委員長（藤原正夫君） 加藤副委員長。

○委員（加藤敬徳君） やっぱりこういう報道が出てしまうというのは、もう出てしまっていますし、今後もこういうケースも当然あると思うんで、やっぱり困るのは、やっぱりこういうことが出たことによって、いろんな尾ひれはひれついた情報がどんどん出回ると、前回美術館のときもそうだったと思うんですけども、それはやっぱりなくすためには、ただし今の現時点ではっきり言えることはすぐにちゃんと言ったほうがいいと思うので、先ほど金丸委員が言ったように、ちゃんと今現状はこうなんですということを、ちゃんと正式のコメントとして発表するのはやっぱり大事だと思うので、早く手を打ったほうがいいんじゃないかと思います。

以上です。

○委員長（藤原正夫君） よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（藤原正夫君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（藤原正夫君） この後、10時から全員協議会もあります。また、そこでも、今度は特別委員会以外の議員さんからも、また質問等が、また違った角度であろうかと思っいます。

最後に言いますけれども、もう少し、この問題はちょっと反省面があるのは、市民ワークショップは月に1回、2回のところで、あまりにも時間がかかり過ぎて、私どもも、特別委

員会、ちょっと2か月、3か月空いたことも、少し反省面ではなかろうかなと、これ思うに、前の特別委員会のところにも、私も皆様には謝りましたけれども、もう少し次年度からどういう構成になるか分かりませんが、少し回数を多く、皆の意見を聞いてやればいいかなと、こんなふうに思います。そんなことも、この記事の中の原因の一つと、ないと言えればあれですけども、こんなことも私的にはそういうことも原因の一つかなと思います。

ですから、報道の方も新聞社も、何か月もかかって、何かどうか違う案があるのではないかと、こういうふうな勘ぐるところもあったのではなかろうかと、私個人的にも思いますけれども、こんなことでございます。

それでは、なければ委員の質疑を終わります。

続きまして、傍聴議員の質疑を許します。

質疑ございますか。

金丸寛議員。

○議員（金丸 寛君） 市がいろいろ手がける事業に関して、新聞社の新聞記者さんが、常に取材のために議会あるいは庁内には出入りしているという現状がございます。その中で、彼らも記事にした取材源というのは守秘義務等があって、なかなかそこを問い詰めても言うわけではないと、言ったらちょっと記者生命が絶たれるというような立場にある彼らだと思います。

我々も特別委員会、あるいは議会というものを当然、市の執行の方には重要視していただくことは当然のことだと考えていますけれども、一方で定例会等に記者の取材を許可しているという面もございます。そういったところで、記者は記者なりに、彼らの取材の出来得る限りの範囲でそれを記事にしたいというのが記者の使命だと私は思っています。それが正しいかどうかというのは、当局、我々にとってはちょっと先走った記事ではないかというような感も今回はしておりますけれども、彼らの立場といいますか、取材の能力、その範囲内で書いたこと、彼らに全面的に責任はあるかと思っておりますけれども、その一端を我々は提供している場面もあるのではないかなというところで、脇を固めると言いますか、そういったところを執行も我々も、少しこれを機会に反省しなければいけないかなと、そんな感じは思っています。

その点、執行の方、どのように考えているか、単に彼らの責任だけではないよというところ、これを記事を読んで判断するのは読者ですから、我々もその読者の一人に入りますけれども、その辺のニュアンスといいますか、非常に新聞報道というのは広くされるものなのです

で、その辺の認識といいますか、少しありましたら教えていただきたい。

以上です。

○委員長（藤原正夫君） 齊藤都市建設部長。

○都市建設部長（齊藤一己君） おっしゃるとおりでして、私どもも今回のような形で議会より先に、ましてや説明していない内容をこのように報道されてしまうというのは不本意なところがございます。

ですので、今後も、先ほどからご説明させていただいておりますとおり、まず、緑化センター跡地活用特別委員会へご報告させていただくと同時に、本会議等において、お伝えすべきことがあれば、今後もお伝えさせていただきたいと思っております。

いずれにいたしましても、今回のように、報道のほうに私どもが情報提供して出たという内容であるなら、このような責めを受けてもしょうがないとは思っておりますが、私どもが今回情報提供したわけではございませんので、今後もこのような誤解のないような記事が掲載されることのないように、私どもも脇を固めていきたいと考えております。

○委員長（藤原正夫君） ほかにございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（藤原正夫君） なければ傍聴議員の質疑を終了します。

以上で、（仮称）篠原地区公園整備に係る新聞報道について終了をいたします。

次に、（２）その他に入ります。

委員より、都市計画課関係でお聞きしたいことがありましたらお願いをいたします。

〔発言する者なし〕

○委員長（藤原正夫君） なければ、以上で都市計画課関係のその他を終了します。

引き続き、次第の４、特別委員会関係のその他を行います。

委員より、特別委員会関係でその他何かありましたらお願いをいたします。

〔発言する者なし〕

○委員長（藤原正夫君） ないようですので、それでは、事務局よりありましたら、お願いをいたします。

〔「特にございません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（藤原正夫君） なければ、その他を終了します。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

これもちまして、山梨県緑化センター跡地活用特別委員会を閉会します。

ご苦労さまでした。

閉会 午前 9時29分